

文部科学省委託

「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業(動画コンテンツ開発)」

研修用 動画コンテンツ2

外国人児童生徒等教育の考え方



本研修(動画視聴)の目的

外国人児童生徒等の教育に必要な基本的な考え方を理解し、文化間移動と発達の観点から外国人児童生徒等の状況を把握して、ことばの教育のあり方を考えることができる。

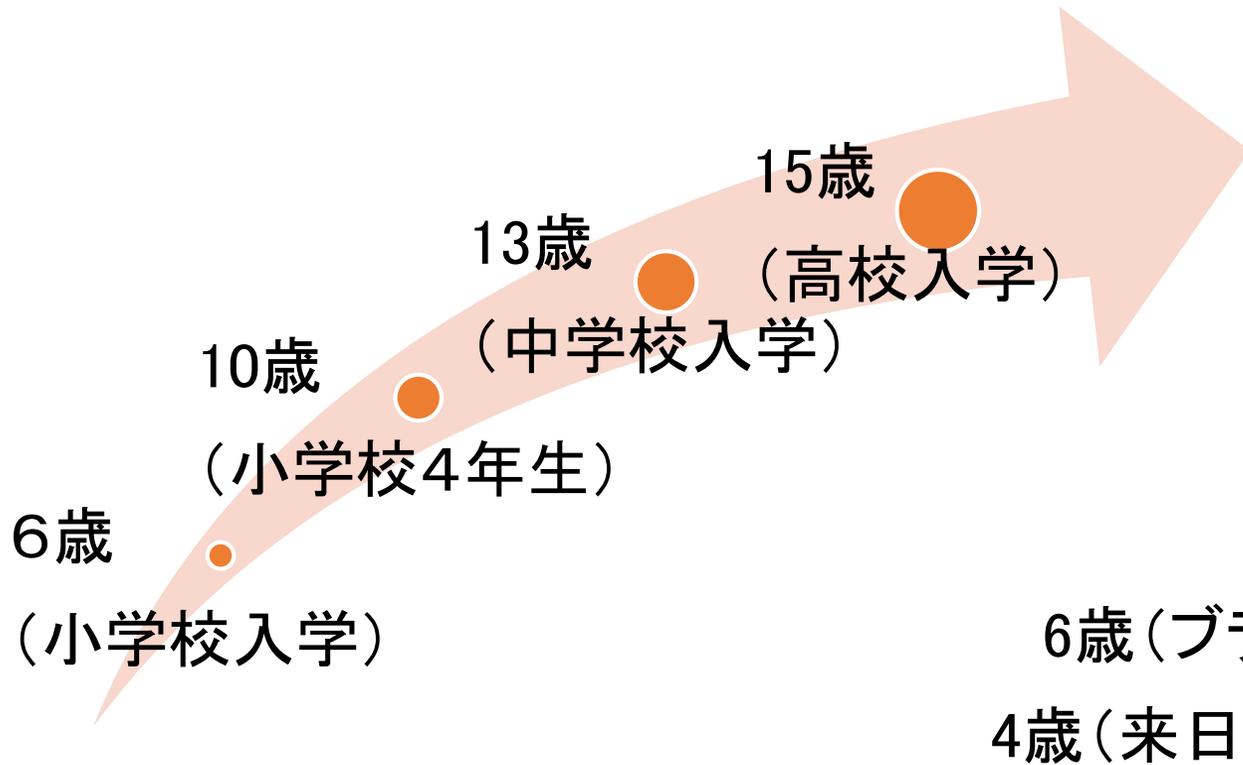
キーワード

- ・文化間移動 成長・発達の視点、社会参加と自己実現
- ・子供の言語発達 ことばと思考 生活言語能力と学習言語能力
萌芽的リテラシー
- ・母語と第二言語 二つの言語の関係(二言語相互依存仮説)
アイデンティティ
- ・複言語主義
- ・文化適応 異文化適応のプロセス、情意面、行動面、認知面の違い

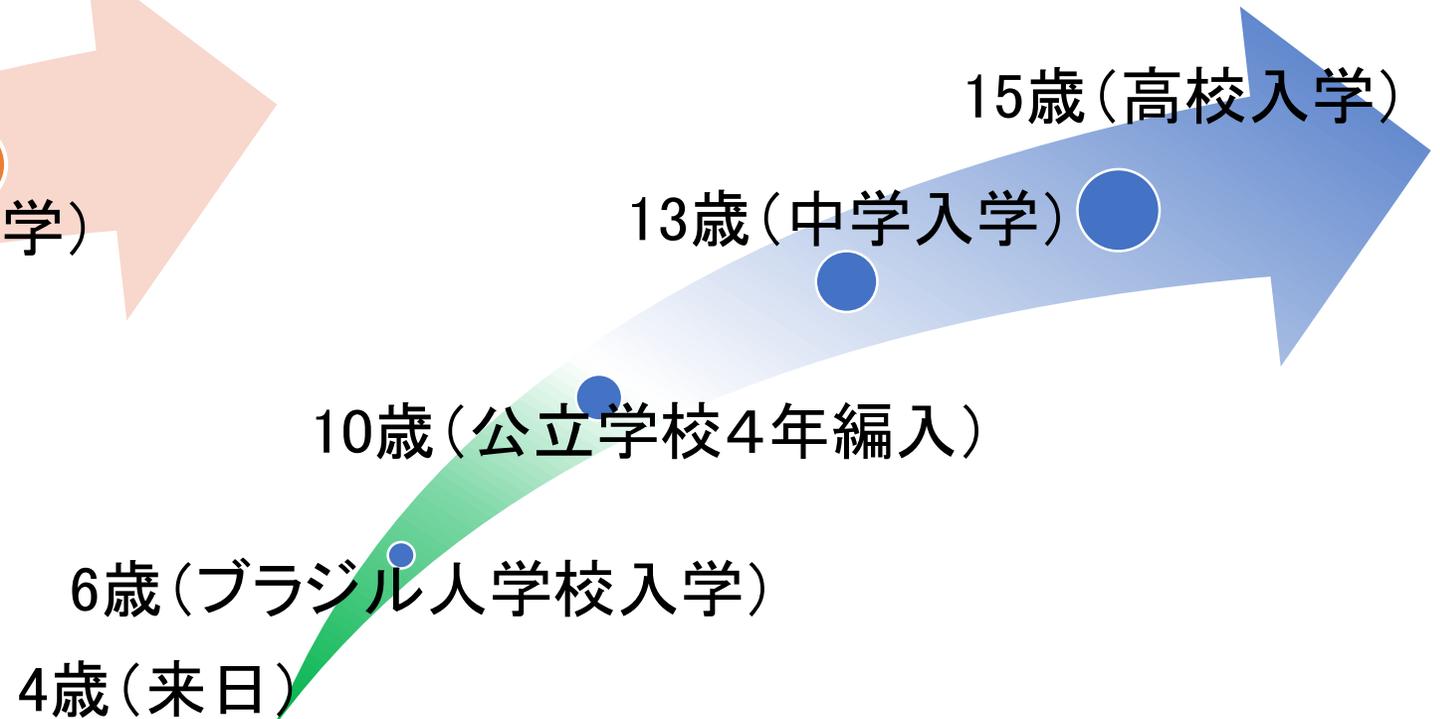
成長・発達の途上で 文化間移動をする子供たち



文化間移動をしなかったはるとさん



文化間移動をしたカルロスさん



アイデンティティのゆらぎ



ルーツの文化

出身国

家庭の文化

母語

家族と日本語で会話
母語を失う

文化
間
移
動

学校生活での戸惑い

新しい文化

日本

学校文化

日本語



母語で身につけた学力を
日本語で発揮できない

複数の言語に触れて育つ 子供たち



外国人児童生徒等の日本語習得の特徴

幼児の言語獲得

- 時間をかけて、濃密な人間関係の中で、ことばのシャワーを浴びながら
- 成長発達とことばの習得が同時
- 話し言葉が十分に育ってから書き言葉の習得が始まる

大人の外国語学習

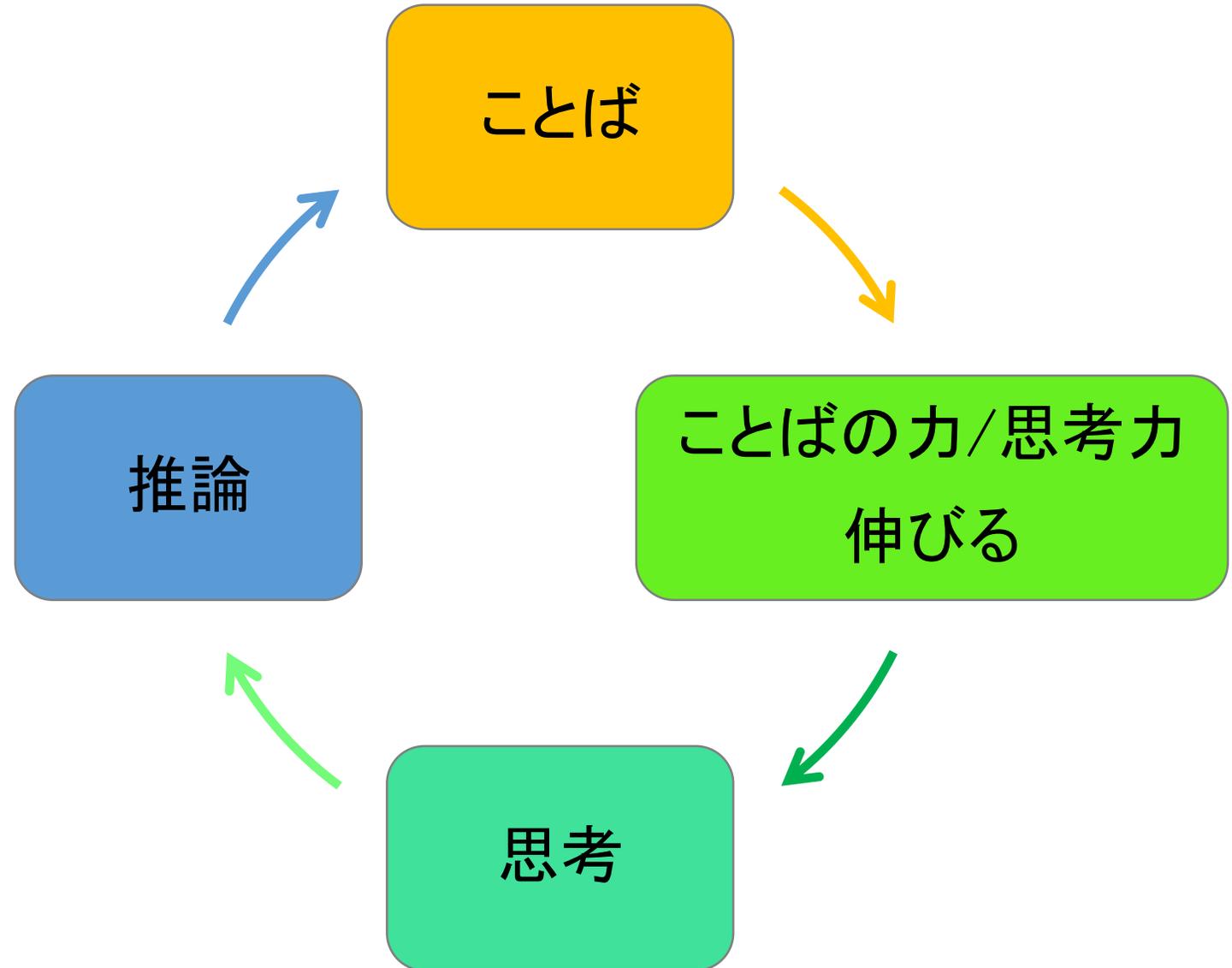
- 新しい言語に触れる時間は限られている
- すでに認知的な発達を遂げており、その力を使って習得できる
- すでに書き言葉は習得しており、それを新しい言語に転移できる

外国人児童生徒等の日本語習得

- ・まだ発達途上の認知力と弱い日本語で発達を支える
- ・文化間移動した年齢の影響が大きい
- ・時間的制約、社会的関係性の影響

ことばと思考

- ことばは世界を切り分ける。
- ことばは思考を支えている。
- ことばの力と思考力は、車の両輪となって伸びる。



生活言語能力と学習言語能力

日常生活のことば

生活言語能力

→習得に2年程度

例えば…

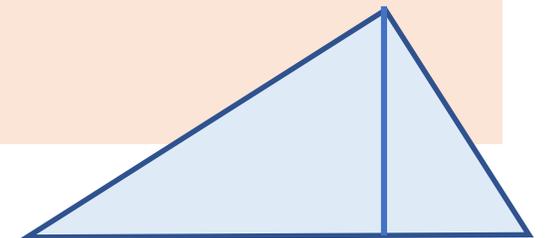
- 温める、冷たくなる
- 「それ、持ってきて！」
- 「昨日さ、動画見てさ、まじやばーってなって、10回見てさ…」

授業のことば

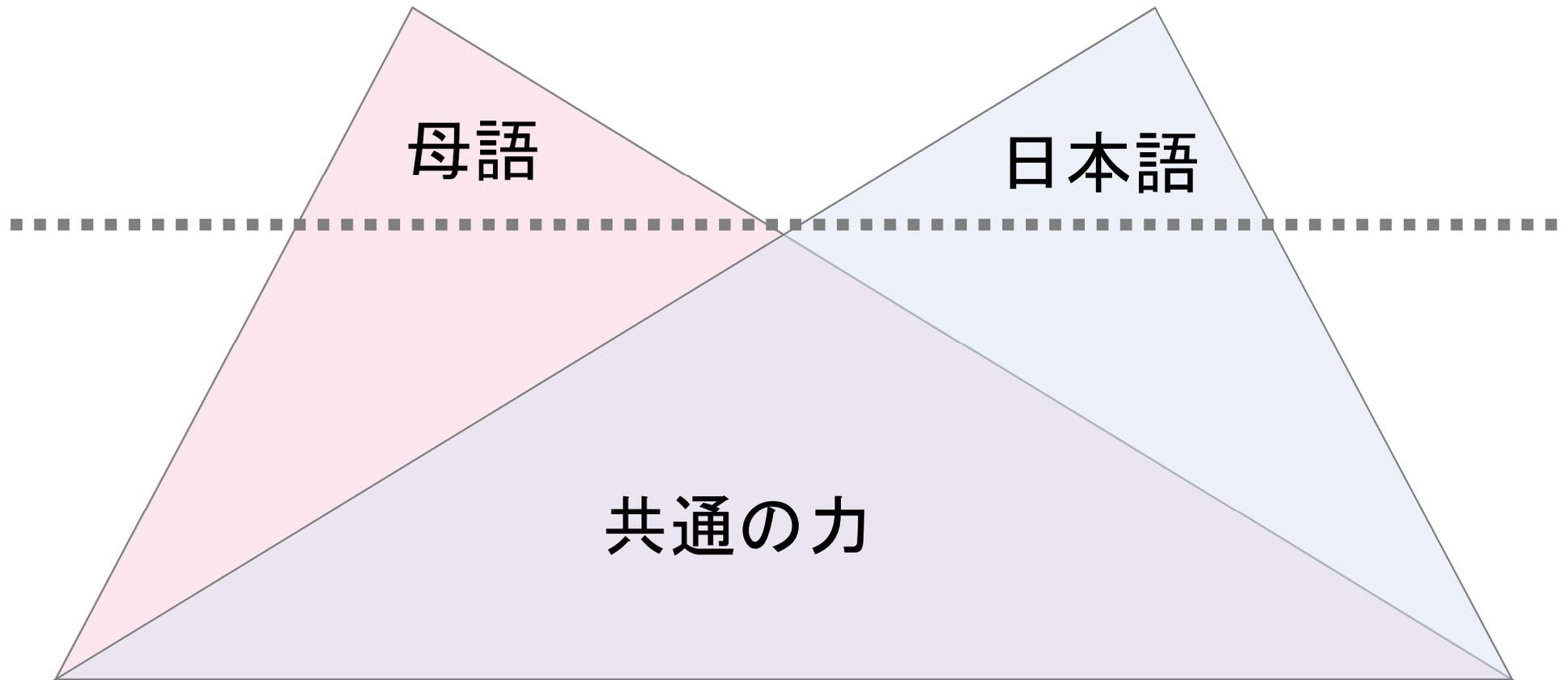
学習言語能力

→習得に5～10年

- 熱する、冷却される
- 「三角形ABCで、辺BCを底辺とするとき、頂点Aから底辺BCに垂直に引いた直線の長さを高さといいます。」



氷山の仮説(二言語相互依存仮説)



Cummins(1984)を元に作成

読み書きの力(リテラシー)の習得

- 話し言葉の発達

6ヶ月～5・6歳

リテラシー
萌芽期

- 看板、自分の名前など特定の文字が読める
- 音韻意識

小学校1・2年生

読むことを
学ぶ

- 文字と音の対応
- 個々の文字から語の認識

小学校3・4年生～

学ぶため
に読む

- スラスラ読める
- 知っている語や漢字増える
- 読み物を読んで理解

母語・継承語の重要性

母語 最初に学んだ言語、最もよく使える言語、…

継承語 家庭で用いられる言語で、社会の主要言語とは異なる言語

- 思考力の基礎
- アイデンティティを確立させるためのツール
- 家族とのつながりを作る
- 集団としての民族文化を維持する

日本語教育の推進は、我が国に居住する幼児期及び学齢期にある

外国人等の家庭における教育等において使用される言語の重要性に配慮して行われなければならない。(日本語教育推進法第三条第7項)

- 複数の言語に触れながら育つ子供は、自身の持つ複数の言語の能力を駆使しながら、周囲の人々と関わりをもちつつ育つ。
- 日本語、母語・継承語、それぞれでの経験が合わさって、子供の人間的発達を促す。
- それぞれの言語での経験、学びをトータルに捉える必要がある。

複言語主義

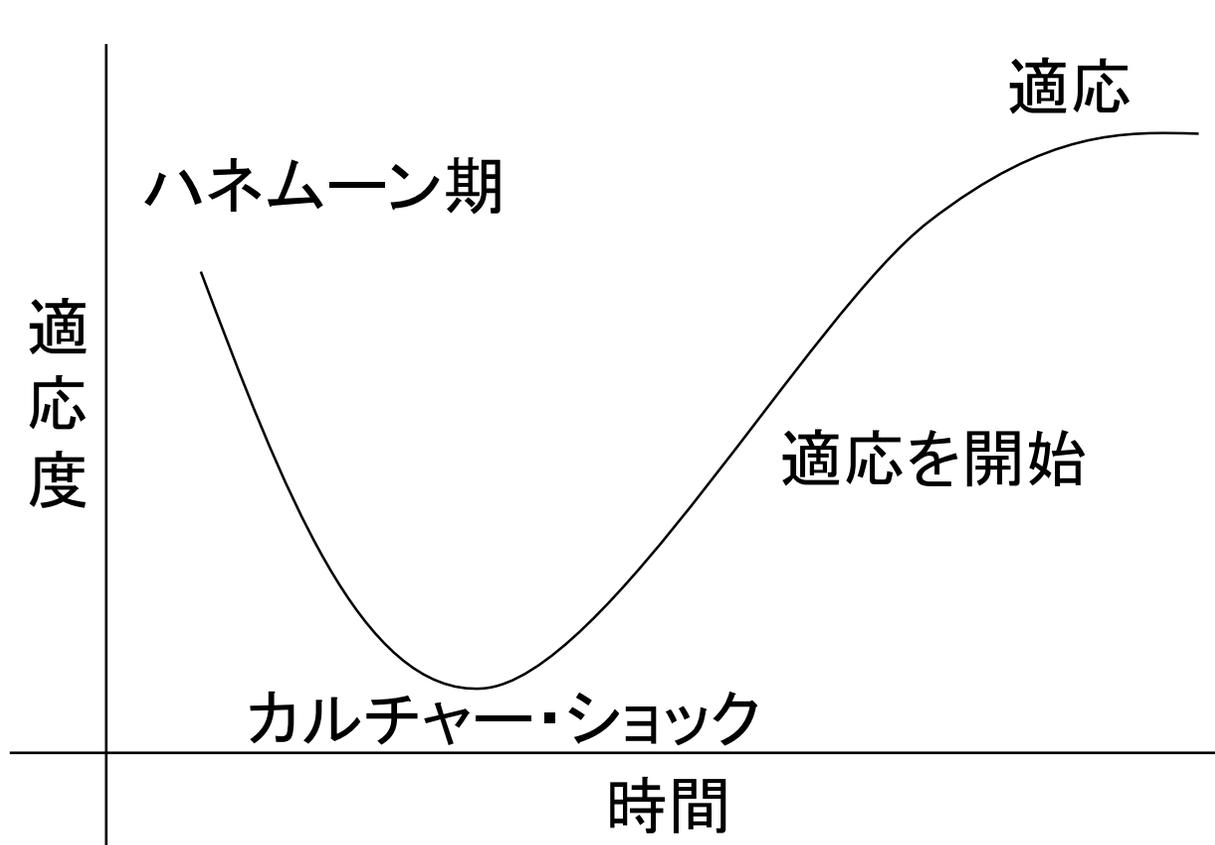


複数の文化に触れて育つ 子供たち



新しい文化への適応のプロセス

- 異文化への適応は直線的ではない

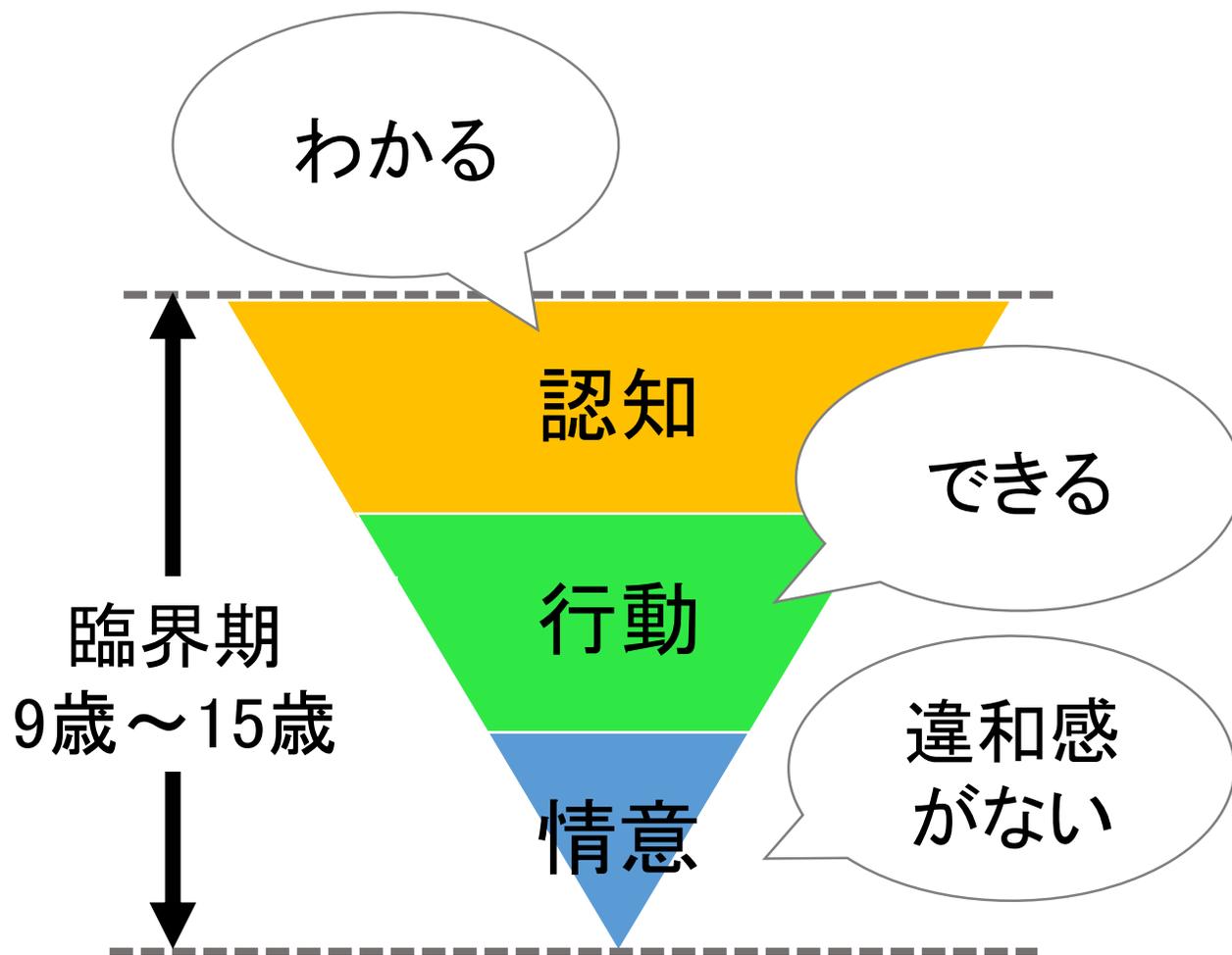


リスガード(1955)のU-カーブ

一人一人の適応の
プロセスは多様

異文化適応と発達段階

- 文化適応の3つの側面
認知・行動・情意
- どの年齢で文化間移動を経験するかによって、その影響は異なる。



アイデンティティのゆらぎを支える

サードカルチャーキッズ(第三の文化の子供)

親の文化とも、日本の文化とも異なる独自の文化を形成

〇〇人の子供は
〇〇人

「本質主義」

日本人でもあり、
〇〇人でもある

「自分は地球人」

「ミックスルーツ」と
いうアイデンティティ

「構築主義」

自身のアイデンティティを肯定的に捉えられる環境づくりが重要

ポロック, デビッド, C., ルース=ヴァン・リーケン (1999/2010)

『サードカルチャーキッズ—多文化の間で生きる子どもたち』スリーエーネットワーク

関連Webサイト

文部科学省

- ・「外国人児童生徒受入れの手引き」2019年3月改訂版

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

- ・海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ「CLARINETへようこそ」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

- ・帰国・外国人児童生徒のための情報検索サイト「かすたねっと」

<https://casta-net.mext.go.jp>

- ・「外国につながる子供向けの教材が知りたい！」

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00663.html

文部科学省委託
「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業（動画コンテンツ開発）」

研修用動画コンテンツ 2 外国人児童生徒等教育の考え方

著作権者： 文部科学省
担当講師： 浜田麻里（京都教育大学）
企画構成： 日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援動画コンテンツ開発委員会
制作： 毎日映画社
発行： 2021年3月31日



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN